

清田の大クス は中部地方随一のクスの巨木として知られ、推定樹齢は1000年と言われています。ここ数年、クスサン（ガの一種で無毒です）の大発生に見舞われ、4～5月には多くの若葉が食べられてしまいました。このため、大クス保全ボランティア活動の一環として、昨年6月にクスサンの幼虫約1600匹を駆除しました。今後も、地域の宝である大クスを守ってまいります。



ID 0062673

保全ボランティアに登録しませんか

- と き** 年2～3回（登録者に事前連絡）
- と ころ** 清田の大クス
- 内 容** 草刈り、折れた枝の除去、土の掘り起こし、よしず・すだれの敷設など
- 対 象** どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
- 申し込み** 直接、電話、メールで、住所・氏名・年齢・電話番号を博物館（✉ museum@city.gamagori.lg.jp）へ。
- その他** 古くなったよしず・すだれを集めています。直接博物館へお持ちください。

館長の
ひとこと



小林 龍二

温暖化だ温暖化だと言いつつも、冬になれば律儀に寒くなり、蒲郡でもうっすら雪が積もる日もありません。寒いのは苦手です。

海や川では寒いのに鳥が縮こまって水に浮いています。山の草むらで丸くなればいいのと思うのですが「そつうけどねえ、こつちにはアソタ方には分らん理由があるんだわ。」とか「ほつといてくれんかのん。」という顔でみんなして寒そうに浮き、撮影のため近づくとも面倒くさそうに沖へ逃げます。自分が鳥で、こんな寒い中で水に浮かねばならんのなら、いっそ捕まえて暖めついでに焼き鳥にしてもらいたいと思いますね。せめて水から上がればいいのに、気温より水温のほうが暖かいのか水に浮いています。

海の中の魚たちも冬はみんな深場でコタツに入ってみかんと食べているのか、釣りに行っても全然釣れない磯遊びや採集もできません。



この時期の鳥たちの姿は、私には罰ゲームにしか見えません。

方で水族館の水槽は水温管理ができており、年中暖かい適温で非常に贅沢暮らし。しかし！昨年のリニューアルで光熱費節約のため三河湾の魚たちを熱帯海水魚と切り離し水温を別々でコントロールできるようにしました。これまで30年以上も熱帯系の水温に合わせて25℃の年中温室暮らしだった三河湾の魚たちは、様子を見ながら設定20℃に降下。快適だった25℃から5℃も寒くされてウマツラハギやシタビラメ方面から反対意見が出たようですが？冬の目の前の海に比べれば贅沢すぎるんだぞ！という担当飼育員の強引な説得により元気に泳いでくれます。